

単元まるごと計画「バースデーカレンダーをつくろう」（全8時間）

単元のゴール（can-do）：友だちの誕生日と、誕生日にほしいものをたずね合い、聞き取ったことを持ち寄ってクラスのバースデーカレンダーを完成させる。

評価規準 3観点（国研参考資料の文型で作成）

知識・技能	When is your birthday? / My birthday is / What do you want ...? / I want などの表現について理解しているとともに、誕生日やほしいものについて伝え合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	クラスのバースデーカレンダーを作るために、誕生日やほしいものについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	クラスのバースデーカレンダーを作るために、誕生日やほしいものについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

◎＝記録に残す評価（方法つき）。◎のない時間は指導に徹し、記録に残す評価は行わない。

単元の流れ 全8時間

時	紙面	主な活動	帯（毎時間のはじめ）	評価
1	SO	先生の誕生日の話を聞く（月の言い方に 出会う）＋月チャンツ	歌／チャンツ	記録なし
2	SO	月の言い方練習＋バースデーライン1回戦 （活動1）	Small Talk①話題1（先生の誕 生日）	記録なし
3	YT	日づけ（序数）の言い方＋バースデーラ イン2回戦	歌／数のチャンツ	記録なし
4	YT	What do you want ...? の言い方＋書き WS①	Small Talk①話題2（先生がほ しいもの）	記録なし
5	EC	カレンダーづくり・インタビュー①（活 動2）	歌／チャンツ	◎ 行動観察（知 技）
6	EC	インタビュー②→中間指導→カードをは ってカレンダー完成	歌／キーフレーズ暗唱	◎ 行動観察（思 判表）
7	OH	世界の誕生日の祝い方を聞く（教科書 OH）＋お披露目→おわりに「今月がお誕 生日の人」紹介	歌／チャンツ	記録なし
8	OH	パフォーマンステスト（やり取り）＋単 元の振り返り	なし——テストに使い切る	◎ テスト（知 技・思判表）＋ 振り返りカード （態度）



45分の基本形と運用メモ

45分の基本形 毎時間この流れ（先生は上から順に使うだけ）

分	やること	使う教材
0-5	あいさつ・歌	—（教科書付属音源）
5-10	Small Talk／チャンツ	Small Talk台本①
10-15	語彙の練習	絵カード
15-17	めあての確認	—（黒板に型を掲示）
17-37	主活動 ※途中で中間指導	活動シート1～2
37-45	振り返り（1行）・あいさつ	振り返りカード（汎用）

時間が足りないときは、ここを削る（優先順）

- 1. バースデーライン（第2時）は「月だけで並ぶ」1回戦でやめる（日づけまでの2回戦は第3時に回す前提で組んである）
- 2. インタビューは1時間4人まで（欲張ると中間指導の時間が消える）
- 3. ほしいもののカードの色ぬり・かざりは休み時間か図工へ回す（英語の時間で塗らない）

準備物 印刷するだけ（準備5分）

- ☐ 絵カード（提示用1部＋班数分）
- ☐ 活動シート1～2（各時間、人数分）
- ☐ 書きワークシート①（人数分）
- ☐ 月ごとの台紙（模造紙を12マスに区切り January～December と書くだけ）
- ☐ パフォーマンステスト式（先生用・第8時）
- ☐ 振り返りカード（汎用の型・単元名だけ書き換え）

配慮が必要な子へ

- ・「ほしいもの」は空想でよいと第1時に宣言する。実際にもらえるか・値段・豪華さは評価と無関係だと先生の口から先に言う
- ・誕生日を言いたくない子には「自分の好きな月」で参加する道を用意する（活動もテストも測る力は同じ）
- ・序数が出てこない子は月だけでよい（My birthday is in May. で成立）。表を指さして伝えるのも立派な伝え方
- ・ほしいものは絵でOK。英語のつづりは絵カード・活動シートから書き写す（自力でつづらせない）

先生へ（この単元の勘どころ）

- ・この単元の地雷はプレゼント格差。先生モデルに「大人だから自分で買うけどね」と笑って添え、ほしいもの＝空想の話に着地させる。もらった物の自慢大会にしない
- ・月名12個・序数31個を覚えさせる単元ではない。表を見ながら言えれば十分（見て言う→くり返すうちに見ないで言える、の順で必ず育つ）
- ・月だけなら in がつき（in May）、日づけまで言うといnが消える（May 5th）。規則は説明せず、先生が正しい方を音でくり返すだけでよい